

第3章 各教科等の研究の概要

国語科

お互いの考えを伝え合い、 新たな学びを創り出す授業の追究 ～新たな学びを創り出す伝え合う活動の追究～

1 研究の経緯と本年度の研究の方向

(1) 研究の経緯

本校の研究主題である「未来に向かって、自分らしい生き方を考える子供を育てる」を受けて、国語科では「自分らしい生き方を考える」子供像を、以下のようにとらえた。

- 目的や意図に応じて、自分の考えを大切にしながら、的確に読んだり話したりできる子供
- 相手との伝え合いを通して、自分の考えを深めたり新しい考えを生み出したりしようとする子供
- 多様で柔軟なものの見方や考え方ができる子供
- ことばに関心を持ち、自分たちのことばを大切にしていこうとする子供
- 学習内容や学び方を自分の力で獲得し、よりよく成長しようとする子供

そして、その子供像の実現のために、研究主題を「お互いの考えを伝え合い、新たな学びを創り出す授業の追究」と設定し、研究の2年次に当たる昨年度は、

- 一人一人が自分の思いや考えを明確に持つための支援
- 新たな学びが生まれるような「伝え合う」学習活動の展開と工夫
- 言語感覚を磨く学習展開の工夫

を中心に実践を重ねてきた。

昨年度は、授業改善の視点の中での重点化を図り、実践を通してその方策を明らかにしてきた。2年間の研究の中で「伝え合い」や「学び」を深める支援及び方法については成果が見られた。

(2) 本年度の研究の方向

本年度は、本研究主題の第3年次にあたり、研究副主題を「新たな学びを創り出す伝え合う活動の追究」として、「新たな学びの実感」と「他の単元や領域での実践」の2点に視点を当て研究を進めることとし、重点課題に以下の2点を掲げた。

- 1 新たな学びを実感できる学習活動への支援
- 2 自分の言語生活に生きることばの学習の工夫と言語感覚の育成

1については、昨年度までの実践であるそれぞれの考えを交流したり討論したりすることで学びを高められるような双方向的な「伝え合う活動」をさらに深化し、学び合いの場を工夫したり一人一人に役割を持たせて主体的な取り組みが生まれたりするようにしてきた。そして子供自らが、学習のねらいを意識しながら学びを創っていけるように学習計画表の工夫や「比較する」学習活動を取り入れてきた。

2については、全体提案の「学んだことを生活に生かす場や支援を工夫する」を受けて、言語事項教材だけでなく説明文教材や文学教材においても、常にことばを大切にしていってこれまでの自分たちの言語生活を振り返ることができるようにした。また、「言語感

覚」のとらえを明らかにし、その育成のために発達段階に応じた学習材を工夫してきた。

2 研究の内容

(1) 新たな学びを実感できる学習活動への支援

子供が「新たな学びを実感できる」のは、新たに知る喜びを感じたり、分からなかったことが分かる喜びを味わえたりするときである。そこで、子供の知的好奇心を高めるような学習課題や学習展開を工夫していく必要があると考えていくつかの手立てを実践した。

ア 新たな学びを実感できる伝え合う活動の工夫

これまで行ってきた「伝え合う活動」の中で、新たな学びの実感が得られるように考えを出し合って〇〇を作ったり、対話をして内容を深めたりするなど学び合いの場を目的に応じたものにした。そしてその中で、一人一人に学習における役割を持たせることにより、受け身ではない主体的な学習を促し、学習したことを伝え合う必要感を持たせたり、伝え合った後に新しい学びを実感したりできるようにした。

2年 「ことばあそびブックを作ろう」

第3時 「ことばあそび とっくん」

- ・ 提示されたことばあそびの詩のきまりにのっとして、初めに、2人ずつに分かれアイディアを出し合い、最後に4人で話し合い一つのことばあそびの詩を作っていく。

4年 「ことばを」ふりかえろう ～こんな意味が、こんな使い方が～

第6時 「このことば」使いますか？

- ・ 司会者、記録者、質問者等話し合うときの役割をはっきりさせ、クラス全体での学び合いの場を設定し、司会グループが自分の調べたテーマについて学びをリードし、話しことばについての考えや理解を深めていく。

また子供が、言語表現・自分の特性・興味関心などの自分のよさを生かしたり、苦手なことに挑戦したりできるような場を工夫するなど、教師が子供一人一人に合わせてガイダンス的にかかわり、自分らしい学びを支えていくようにした。

4年 「ことば」をふりかえろう ～こんな意味が、こんな使い方が～

第1時 学習課題作り

- ・ 自分の興味関心を持ったことば（気になることば）を学習課題にし、その使い方や語源を調べる。

第6～8時 ことばについて調べたことをまとめよう

- ・ 学習したことをまとめる際に、自分のよさを生かしたり苦手なことに挑戦したりできるような表現の選択の場を設け、子供が自信を深めたりできなかったことができる喜びを実感したりする機会を増やしていく。

イ 「比較する」学習活動の工夫

自分の考えと他の考えを比較することでその違いを意識化させたり、多様な考えを出し合い、出された考え同士を比較したりする学習を繰り返したりというように「比較する」という学習活動を意図的に取り入れた。これによりこれまで気付かなかった考え方と出会い、自分の考えをはっきりさせ、新たな学びが実感できるようにした。

3年 「様子をくわしく表そう」

- ・ 同じ動きを見て短文を作り、自分が書いた文と友達が書いた文を比べ、ことばの選び方や使い方の違いなどについて話し合う。また、ことばの持つ意味や語感、使い方などについて、複数のことばを比較してから調べる。

また、考えだけでなく提示された複数のことば、文章、作品、意見等を「比較する」学習活動を工夫し、これまで気付かなかった新たな見方に気付いたり、別の角度から深く考えるきっかけを与えたりすることにより、新たな学びを実感できるようにした。

5年 「ことばの学習」(単元)

- ・宮沢賢治作品の中の「風」の表現と自分の表現を比較する。
- ・宮沢賢治作品の中の多様な「雲」の表現を比較する。
- ・宮沢賢治作品の中のその他の自然の情景描写を比較する。

ウ 学習計画表の工夫

新たな学びの実感ができるようにするには、日々の自分の学びを明確に実感していくことが大切である。そのために、2つの視点から学習計画表に工夫を加えた。まず、子供と共に学習を作り上げていくことができるように、単元のはじめにねらいと展開の概要を明らかにして見通しをもって学習に取り組めるようにした。さらに、単位時間の学習のねらいを明確にして与えたり子供と共に考えたりして、ゴールの姿をはっきりとさせるようにした。

事例 学習計画表の工夫について

第1時では、本単元の流れを教師側から伝え、本単元をどのように進めていきたいか学級全体でイメージを広げていき、その後、単元への自分の思いを記入するようにした。これにより、単元の見通しと意欲を明確にしながら、活動に取り組むことができるようになった。

第2時から活動内容とねらいを明らかにして、本時の活動と日常生活を関連させて振り返るなど、観点を決めて振り返りをさせたり、観点を教師と共に設定して振り返ったりするようにした。

これらの工夫により、教師も個に応じたガイダンス的なかわりを行い、日々の学びを実感させることができた。

「ことばあそびブック」を作ろう！(「ことばであそぼう(2)」)
2年 1組 24番()

今日の目標	みんなのねらい
☆「ことばあそびブック」を作ろう！ どんな風にしたいかな？ みんなのねらいは、 <ul style="list-style-type: none"> ・たのしいことばあそびを作りたい。 ・みんなが「あそび」をばいしてあそぶことができる。 ・なぞなぞのしを作りたい。とくに、むずかしいのしを作りたい。 ・みんなが「あそび」を作りたい。とくに、みんなよりあそびたい。 ・リズムたあそびを作りたい。とくに、みんなよりリズムたあそびを作りたい。 	○どんな「ことばあそびブック」にした いのか、自分の思いをしっかりと書こう。
☆「ことばあそびとくくん1その1」 いろいろな国の名前であそびを作ろう！ みんなの生活から <ul style="list-style-type: none"> ・たのしいあそびはあそびたい。 ・あそびたいあそびはあそびたい。 ・あそびたいあそびはあそびたい。 	○世界の国の名前でおもしろいであそびを作ろう。 をたくさん作ってみよう。
☆「ことばあそびとくくん1その2」 「う」のつくことば大集合！ やってみて感じたこと <ul style="list-style-type: none"> ・「う」のつくことばはあそびたい。 ・「う」のつくことばはあそびたい。 ・「う」のつくことばはあそびたい。 	○「う」のつくことばで、リズムを考えよう。 うそばっかりなしを作ろう。
☆「ことばあそびとくくん1その3」 「あいうえお」をさあ！ やってみて感じたこと <ul style="list-style-type: none"> ・「あいうえお」のつくことばはあそびたい。 ・「あいうえお」のつくことばはあそびたい。 ・「あいうえお」のつくことばはあそびたい。 	○「あいうえお」のつくことばで、音を考えて 五十音のしを作ろう。

(2) 自分の言語生活に生きることばの学習の工夫と言語感覚の育成

学習指導要領の目標に「言語感覚を養い、国語に対する関心を深め、国語を尊重する態度を育てる」という記述が見られる。そこで、「学んだことを生活に生かす場や支援を工夫する」という本校の全体提案を受けて国語科では、主にことばの学習における2つの研究に取り組んだ。

ア 自分の言語生活に生きることばの学習の工夫

これまで日常生活とは無縁であり、どちらかというと知識・理解中心になりがちであった言語事項教材を、自分の言語生活を振り返るきっかけとなるよう展開を工夫したり、教材を開発したりした。そしてそれらの学習を通して、自分たちのことばを見つめたり見直したりすることから、自分たちの生活に目を向けられるようにした。また、これらのことばの学習の工夫は、言語事項教材だけでなく説明文教材や文学教材においても同様に行うことができ、国語で学んだ力を他の授業や自分の生活に生かしていけるような意識付けを積極的に行っていくことが大切である。

4年 「ことば」をふりかえろう ～こんな意味が、こんな使い方が～

- ・ 日常生活でのことばに目を向けさせ、「ことばウォッチング日記」を継続的に書くことにより、自分の考えや問題点をはっきりさせ、自分のことば遣いに能動的にかかわることができるようにする。
- ・ 「ことば」について学んだ後の自分の言語生活の変容を学習のまとめとして取り入れ、文に書くことにより、生活に密着した自らの課題としてつなげていく。

- ・ 学習内容や計画表の振り返りの内容を工夫し、学んだことが自分の生活に生きるようにする。

2年 『ことばあそびブック』を作ろう！（「ことばであそぼう(2)」）

- ・ 学んだことが自分の学習や生活に生きるように、その時間の感想を書くのではなく、めあてに対してどのような観点から振り返ればいいのか明確にしていく。

イ 言語感覚の育成

「言語感覚」に関して、学習指導要領では、「言語の使い方の正誤、適否、美醜などについての鋭い感覚」と書かれている。本校国語科では、これを、もともと個人に備わっているものではなく、現時点までに個人が学習や経験の過程で獲得し累積された総体から判断される言語に対する感じ方であると考えた。そこでどの領域の学習においても、「言語の使い方の正誤、適否、美醜」の視点から教材をもう一度見つめ直し、言語感覚の育成のための具体的な方法を試みた。例えば、子供の発達段階に合わせて言語感覚を育成する短時間でできる学習材を工夫したり、文学教材において、「気に入った表現」「工夫されていると感じた表現」等を取り上げ累積したり、紹介し合ったりする時間を確保したり、「語彙数を増やす」「工夫して表現する」など、子供の語彙力を伸ばす工夫をしたりというようにである。これにより、より一層、ことばに関心を持ったり、ことばの美しさや適切さ、不適切さに敏感に気付いたりするような豊かな言語感覚を育てることができると考えた。発達段階における言語感覚のとらえについては以下になる。

〈低学年〉 ことばの世界を広げていく

- ・ 一人一人の感じ方を大切にしながら、語彙力を伸ばしていく。
- (例) 「一枚の写真を見て浮かんだことばを出し合おう」「4コマまんがのせりふを考えよう」「文学作品の読み聞かせ」（心に残ったことばやよくわからないことばを取り上げる）
「しゃれやなぞなぞ」

〈中学年〉 ことばとことばを比べていく

- ・ ことばに対する意識や感じ方を広げたり深めたりしていく。
- (例) 「文と文をつなぐことばの働き」「ことばの由来に関心を持とう」
「ことばウォッチング日記」の検討 「ことばでスケッチしよう」「短作文オリエンテーリング」
「どんな動きを表すことば？」（ジェスチャーゲーム）「どんな」ことば研究

〈高学年〉 ことばを見つめていく

- ・ 文章の工夫やことばの持つ意味を深く考え、意図的に進んで使っていく。
- (例) 「宮沢賢治作品のワーク」「自作の詩、短歌、俳句」「気になることば（スピーチ）」
「表現のよさ比べ」「ことばウォッチング日記」の検討

3 研究の成果と課題

「伝え合う活動」の中で、学び合いの場を目的に応じたものとしたり多様な考えを「比較する」学習活動を取り入れたりとすることで新たな学びを実感しながら学習に取り組むことができた。また、ことばの学習の工夫を通して、自分の言語生活を振り返り意識しながら言語感覚を育むことができた。今後もさらに学びの実感を大切にしながら、他とかわかる中で生きて働くことばの力を育てていきたい。